

會議等經過報告書

生涯學習課

市 長	副 市 長	部 長	課 長	館 長	館長補佐	課 僚	主 任
令和2年7月15日							
報告者 職・職名 中央公民館 係長 鈴木英行							
1 会 議 名	令和2年度大船渡市立公民館運営審議会						
2 日 時	令和2年7月6日（月）午後2時00分～午後2時50分						
3 場 所	大船渡市交流館・カメラアホール 多目的ホール						
4 出 席 者	公民館運営審議会委員：13名（別紙名簿のとおり） 事務局：4名 … 熊谷生涯学習課長、白石中央公民館長、鈴木係長、佐藤主任						
会 議 等 の 内 容							
1 開 会……………進行：白石館長							
2 あいさつ ・三浦会長 （委員紹介）白石館長 （事務局職員の紹介）熊谷生涯学習課長							
3 副会長の選任……………議長：三浦会長 副会長の選任方法について委員に諮ったところ、事務局案があれば出してほしいとの声があったことから、事務局案として、副会長に佐々木晋委員を提案し、全会一致で承認された。							
4 報 告……………議長：三浦会長 ① 令和元年度公民館事業の実施状況について（会議資料5～7ページ） 説明：熊谷生涯学習課長 〈質疑・意見とそれに対する回答等〉 ○三浦会長 私は赤崎だが、高台に立派な赤崎地区公民館を整備していただいて大変ありがたく思っている。安心して、町民が集える場所ができたなと思っている。あとはどういふふうを活用しようかということ館長会議等でも話題になっているので、活用方法について考えていきたい。							

○舟野委員

昨年この会議に出席した際に、乳幼児学級とふるさと・おおふなとお話大賞が令和元年度で廃止になるという話がなかったと思う。私も新聞の記事で、今年で最後というのを見て分かったが、廃止と決めたのはいつか。去年のこの会議の時点では分らなかったが、その後に決定されたということなのか伺いたい。

→熊谷生涯学習課長

乳幼児学級については、役所の中に子ども課や子育て世代包括支援センターという専門部署ができて、専門知識がない公民館でこういう学級を行うよりは、子どもや子育ての専門の課があるので、そちらに任せたほうが良いということになり、各関係課との話し合いをしながら、昨年の乳幼児学級の終了時期に検討を始めて、廃止ということになった。

お話大賞についても、昨年度の29回の大賞までは実施したが、応募数が年々減ってきていることから、見直しが必要という話になった。そもそもの始まりが三陸公民館図書室の読書推進というような形で始まっていたので、三陸公民館図書室が廃止された現在において、中央公民館で事業を実施することは実態にそぐわないことから、事業の廃止ということとした。

○今野委員

先日、東海新報に市の総合計画策定という記事が大きく載ったところだが、公民館の運営行事の中の延べ人数を見ていくと、令和元年で4,427人、ピーク時で6,000人ぐらいの方々が生涯学習に係るさまざまな行事に参加されている。市総合計画の内容を見ると、恐らく市内でこれだけの人数を動かしている行事はそう多くはないと思う。記事を見た段階で、市総合計画との連携がどうなのかと感じた。お話大賞も確かに参加人数は減っているが、作品は非常にレベルが高いので、内容的にもそのまま埋もれてしまって、一時の一過性のものにしてはもったいないという作品がある。以前もこの委員会の中で話したことがあるが、何らかの形でこういったものが吸い上げられて、持っている力が引き出されるような方法はないかという質問したことがある。人数が減っていくと行事が減っていくというのは、これから新しい大船渡市を作っていくことを考えるともったいない。市総合計画と、中央公民館が動かしている様々な行事や生涯学習の仕組みとがどう連動していくのか伺いたい。

→熊谷生涯学習課長

協働まちづくり部を新しく設置して、地区でのまちづくりや地域づくりというところに力を入れていくということで、新しい協働まちづくり部を作っている。その中でその地域や地区が主体となって、課題解決のために「なにか学習しよう」というようなことにできないか、地区と行政でうまく進んでいけないか、地域づくりやまちづくりなど、今模索しているところであり、中身については今度の市総合計画には盛り込まれてくると思うが、公民館の事業は社会教育をもとに決められている。対象者が日中仕事をしており、忙しくなってきた参加者が減ってきているのは分かっているし、そこを何とか地区を単位として、何かできないかということで今盛んに取り組んでいる。

○今野委員

各地域の公民館の活用という中で、教育の機会を作っていくというテーマがあると思うが、協働まちづくりの中での教育に関わる部分というのは、将来大きな力になってくるし、産業とか社会福祉関係に総合計画がやや傾きつつあるところがあるが、教育って小さなことの連続であり、人数が減ってもとにかく継続していくということが必要であると思うので、ぜひ総合計画策定に協働まちづくりの公民館活動が何らかの形で位置づけされていくことを強く望む。

→三浦会長

私も昨年と一昨年、地域公民館長をやっていたが、その中で今のことが話題になり、各地区公民館に主体となって、やっていこうというその理念や考え方は理解できないことはないが、結構難しいと思う。誰が立案や運営をするかとなると、それが理想的ではあるとは思いますが、そこに行くまでは何らかの形で市が、または中央公民館が道筋を作るとか、あるいはそれを提案していくようなことをやっていかないと、先細りになっていくと思う。それだけは避けるように考えていかなければいけないと感じた。

5 協議……議長：三浦会長

① 協議第1号 令和2年度公民館の事業計画について（会議資料9～10ページ）

説明：熊谷生涯学習課長

〈質疑・意見とそれに対する回答等〉

○熊谷生涯学習課長

新型コロナウイルスの関係で、英会話等は10回計画しているが、回数が減ったり、3回以下になるようだったら取り止めにしたり、段階的に講座の運営を考えていかなければならない状況である。

○三浦会長

まだ岩手県はゼロということだが、いつ広がるかわからない状況である。新型コロナウイルスの状況を見ながら行うということになる。

（質問・意見なし）

6 その他……進行：白石館長

事務局からは提案事項はない旨報告した。

○今野委員

新型コロナウイルスの影響というのは、これからもずっと続いていくと思う。私も仕事柄そういうことに影響を受けているが、いわゆるリモート、テレワーク等、もっとインターネットとかあるいは映像とか、そういったものを使うことで何らかの形で教育の機会を作ることはできないか、ぜひ検討願いたい。これだけの内容のものを、接触して密の状態でやっていくことはできないと思うが、例えば三陸公民館の座席を少し離して、映像でセミナーのようなものは開催できると思うで、うまく運営できたらいいと思う。コロナの影響でできなかったというのは、非常にもったいないと思う。

もう1点は、最近テレビでよく聞くグローバルという言葉がある。グローバルとローカルを合わせた、日本で作られた合成語だと思うが、英語の勉強もぜひ続けていただいてグローバルな人間づくりの一方、地域を知るという意味でのローカルな部分を

うまく噛み合わせて活動できたら、見ていても面白い感じがすると思うので、ぜひご検討いただきたい。

→熊谷生涯学習課長

リモートで何かというような話ですが、明治大学と連携して、ここ数年市民講座をやらせていただいているが、明治大学の教授先生がどうしてもこちらに来れないと状況になっている。来れないのであればインターネットを使って、リモートでスクリーンを通して、会議やセミナーをできないかという問い合わせをしているので、来れないようであれば、そういう形で実施したいと考えている。

グローバルですが、前市長の甘竹さんや住田の元教育長さんなど、今歴史をやられてる方々が、分かりやすい気仙史を作るというような動きをされていて、できればそういうものを活用しながら、郷土を勉強したり、情報を発信したりできないかと考えているが、今のところは私の考えである。そういうことも考えているので、できるように頑張っていきたいと思う。

○佐々木副会長

生涯学習というか、学習ではないかもしれないが、最近市役所の方から伺った話の中で、この5年後ぐらいで、5人に1人が高齢者、認知症になるのではないかというお話があった。いろんな形で、市民講座とか、各地域公民館でセミナーをされているようだが、ちょうど市役所にも長寿社会課も設立されており、市内約4,000世帯が一人暮らしの高齢者、もしくは老夫婦だけの世帯だったと思うが、地域の中にもそういった高齢者の方々を地域で支えたり、一緒に暮らしたりということが必要になってくると思う。そういったことも活動の中でできないものかと思っていたので、対象になるかどうか分からないが、検討いただきたいと思う。

→熊谷生涯学習課長

地区高齢者対象ということで、生きがいセミナーを開催している。地区では地域助け合い協議会というのが組織され、全部の地区に組織されたので、その活動と連携できればいいとは思いますが、その可能性についても、検討してまいりたい。

7 閉 会……………進行：白石館長

以上、会議の経過について報告します。